

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-----------|
| 事業所番号 | 0170200125 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人百合の会 | | |
| 事業所名 | グループホームオニオンコート | | |
| 所在地 | 札幌市北区百合が原1丁目186-3 (電話) 011-774-6821 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 社会教育総合研究所 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区南3条東2丁目1 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年8月28日 | 評価確定日 | 平成19年9月7日 |

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|-------------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年4月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算12.4人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|------|
| 建物構造 | 鉄骨 | 造り |
| | 3階建ての | 3階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|--|
| 家賃(平均月額) | 58,500円 | その他の経費(月額) | 水道光熱費21,000円 貴重品管理費500円 (暖房費11月~3月) 4,500円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 1,200 円 | |

(4) 利用者の概要(5月21日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 2名 | 女性 | 16名 |
| 要介護1 | 2 | 要介護2 | 3 | | |
| 要介護3 | 7 | 要介護4 | 5 | | |
| 要介護5 | 1 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 86.2歳 | 最低 | 70歳 | 最高 | 95歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人社団さっぽろ百合の会病院 医療法人社団池田ファミリー歯科 他 |
|---------|------------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームオニオンコートは、百合が原公園に隣接した恵まれた環境にある。ホーム建物は、母体の特別養護老人ホームと棟続きで、3階に位置しており、ホーム内は見晴らしが良く明るく開放的な造りで、居室も広く清潔である。管理者と職員の協力のもと利用者一人ひとりの個性・波長に合わせた良質なケアが行われている。このホームの特徴は、医療面の安心感と外出の機会が多いことであり、隣接した協力病院の存在は、利用者や家族に医療面での安心感を与えている。利用者は希望すれば、毎週1回、季節を問わずショッピングなど気分転換を兼ねて車で外出することができ、冬季など外出の機会が不足しがちになる時期には、棟続きの母体施設の喫茶店、売店、移動売店等で、お茶を飲んだり、買い物を楽しむことができる。

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 外部評価の結果に関して、職員の意識の中には課題の意味と改善に向けた意欲はあるが、実際の取り組みと実践には至っていない。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価の実施には職員全員で取り組んだ。自己評価の結果を踏まえた反省や改善に向けての意識は職員間で高まっている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は、現在までに4回実施されており、参加者メンバーとの意見交換は活発に行われている。今回の外部評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなど、さらにサービスの向上に生かしていく予定である。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 毎年1回、家族懇親会を開催している。また、訪問のつど気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。カウンターに意見ボックスを設置しているが、活用は殆どされていない。今後は、家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、年1回の定期的なアンケート実施をする予定である。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目④ | 地区の町内会等の活動は盛んではないが、近隣の小学校や幼稚園の学芸会や運動会等の行事に職員と利用者が招待されたり、児童や園児がホームを訪問するなどの交流がある。また、母体施設と合同で行う盆踊り等の行事には、近隣の方にも参加を呼びかけている。今後は、連合町内会等にも呼びかけて、地域活動に参加することを予定している。 |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域密着型サービスの意義は理解しており、事業計画の中に反映させているが、地域密着の現状にあった理念には作り変えていない。 | ○ | 今後は、地域密着型サービスとして何が大切かをホーム全体で考え、現状にあった理念を検討することを期待したい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を月間目標等に記載し、日常的に意識できるようにしている。また、常に理念を意識して介護計画を作成している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地区の町内会等の活動は盛んではないが、近隣の小学校や幼稚園の学芸会や運動会等の行事に職員と利用者が招待されたり、児童や園児がホームを訪問するなどの交流がある。また、母体施設と合同で行う盆踊り等の行事には、近隣の方にも参加を呼びかけている。 | ○ | 今後は、連合町内会等にも呼びかけて、地域活動に参加していくことを期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価の実施には職員全員で取り組んでおり、外部評価の結果に関しても管理者を中心に改善に向けた具体案を検討中である。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、現在までに4回実施されており、参加者メンバーとの意見交換は活発である。 | ○ | 今回の外部評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなど、さらにサービスの向上に生かしていくことを期待したい。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市に対しては、必要のつど連絡をとっており、協力体制はあるが、積極的に情報提供を行うなどの取り組みはない。 | ○ | 市の窓口を、まずは3ヶ月に1回程度定期的に訪問し、グループホームの情報を提供したりするなど、市と相互連携を深め、協力してサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の来訪時には利用者の状況について話し、必要のつど個別に電話で連絡している。また、母体施設と共通の「便り」を4ヶ月に1度、金銭出納明細を3ヶ月に1度、定期的に発行している。 | ○ | 「便り」の他に、毎月定期的に各月の行事予定と簡単な近況報告を郵送することを期待したい。また、金銭出納明細についても毎月定期的な報告の検討を期待したい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎年1回、家族懇親会を開催している。また、訪問のつど気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。カウンターに意見ボックスを設置しているが、活用は殆どされていない。 | ○ | 家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、年1回の定期的なアンケート実施を期待したい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員が変わることによる利用者への影響を最小限にするために、ユニット間での職員の異動はない。職員が退職した際には、利用者の気質を見極めて説明し、家族等には、訪問時や家族懇談会、家族参加の行事などで報告・説明している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部講師を招いた母体施設の研修会が月1回開催され、毎月職員の3分の1が参加している。外部研修には勤務ローテーションに無理がない範囲で毎年3人程度が参加している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 区のグループホーム連絡会で共同の職員研修が行われており、今年4人の職員が参加した。 | ○ | 今後も、区のグループホームとの連絡を密にして、研修や交流の機会を積極的に利用していくことを期待したい。 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に必ず本人と家族にホームを見学してもらっている。入居後は、家族に頻りに連絡を取り、来訪してもらったり、必要なら利用者には外泊してもらおうようにしている。職員は利用者が不安なときは、家族が書いた手紙を渡して読んでもらったり、職員が読んで聞かせるなどして、不安を解消するよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員と利用者が共に寄り添って生活していくという意識を持ち、互いのコミュニケーションを図っている。調理や裁縫等生活を通じて利用者に教えてもらうことで職員も学ぶことが多い。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について把握しようと努めている。意思の疎通が困難な場合は、家族や担当スタッフ、医師等とも相談し、思いや意向を把握するようにしている。 | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は、利用者の望み、家族の意向、職員の話し合いに基づいて作成されている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6ヶ月ごとに見直しを行い、期間中でも状況が変わった場合は、カンファレンスを開いて内容の検討、見直しを行っている。 | ○ | 状況変化の早い人を重点に、見直し期間の短縮を図るよう、期待したい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 病院同行は原則として家族にお願いしているが、家族の都合がつかないときは職員が送り迎えしている。また、美容院、買い物、ウィンドウショッピングや気晴らしの外出に、車で同行している。 | ○ | さらに多機能性を生かして、ショートステイ、デイサービスの実施も検討を期待したい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は、利用開始の際に本人や家族の意向を確認して、以前からの医師なり、当施設の協力病院を紹介するなりなどしている。受診の結果等はその都度家族に連絡している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現在のところ、重度化や終末期に向けた方針の話し合いは行われていない。 | ○ | 協力病院とも密接な連携をとって、利用者、家族と話し合い、早い段階から重度化や終末期に向けた方針を共有しておくことを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員の新規入社の際に誇りの尊重とプライバシーの保護について教育しており、守秘義務について同意書を交わしている。記録物の管理、第三者がいるところでの会話に気をつけている。 | ○ | トイレに設置してある尿とりパットの収納場所の表記には、色分けを用いるなど、個人名を明記しない方法を期待したい。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の行動時間は各人の自由で、本人のリズム、体調に合わせることを基本としている。クラブ活動、散歩、おしゃべりなど、その日の気分で決められるよう支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理、盛り付け、後片付けなど、本人の希望と能力に応じて参加している。毎月1回は利用者の希望の献立を、毎週1回は手作りおやつを職員と一緒に作って食べるなどしているが、毎日の食事は検食者1名のみが利用者と同じ食事を食べており、他の職員は利用者の介助をしている。 | ○ | 通常の食事のときも、職員は介助する一方とならず、利用者と一緒と同じ食事を楽しみながら食べることを期待したい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜日以外は毎日午後1時から4時30分まで入浴できる。希望があれば日曜日でも、午前中でも用意する。最低週2回は入ってもらっている。個別入浴を実施し、入浴中、職員とのスキンシップを重んじている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の仕度、後片付け、菜園の手入れ、掃除、装飾品作りなど、利用者は一人ひとりに合った役割がある。冬季など外出の機会が不足しがちになる時期にも、棟続きの母体施設の喫茶店、売店、移動売店等で、お茶を飲んだり、買い物を楽しむことができる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 毎週1回、季節を問わずショッピングなど気分転換に車で外出している。気の合う者同士で外食したり、喫茶店に入ったりもする。月2回くらい、街や公園に出かける。時に公共交通機関を利用した外出もする。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室や玄関に鍵はかけていない。外出傾向のある人の個室には鈴が付けてあり、鳴った時は職員が気を配り、外出希望があった場合は職員がついて散歩を実行する。気分が変わり、本人が落ち着くまで、共に行動する。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の指導の下、年2回、定期的に避難訓練を行っている。協力病院、特別養護老人ホーム、デイケアセンターなど、関連機関が同一ないし隣接ビルなので、非常警報は一斉に鳴り、互いに協力し合う体制である。近隣地域に対しては特に協力のお願いはしていない。 | ○ | 運営推進会議で災害時の対応について議題に乗せ、地域住民の協力を呼びかけるよう、期待したい。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取、食事内容は個別にチェックし、記録している。献立は管理栄養士によって個別の状況に合わせたメニューを作成している。水分の飲み込み困難な人にはゼリー茶で対応し、刻み食の場合は利用者の好みにも配慮し、了解を得て行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | どの空間もスペースがたっぷりとっており、採光もよく、明るく気持ちのよい空間となっている。廊下やリビングの要所に椅子やベンチが配してあり、心地よくくつろげる。壁には手作りのカレンダーや装飾品が飾ってあり、明るく楽しい雰囲気をかもし出している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室が広く、クローゼットも大きいのでゆったりくつろげる空間ができています。各自、なじみの家具や仏壇、椅子、ソファ、テレビなども持ち込まれて、居心地よく過ごせるよう、配慮がなされています。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。